

自己評価票

- 自己評価は全部で101項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものにできるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	23
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	8
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	101

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム さど
(ユニット名)	B ユニット
所在地 (県・市町村名)	佐渡市
記入者名 (管理者)	管理者 本間 茉衣
記入日	平成 21年 6 月 19日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> <p>事業所独自の理念は職員参加のもと作成している。地域への取り組みは具体的にはすすんでいない。</p>	○	<p>運営推進会議や地域交流行事(納涼祭)などを通じて、まずは地域に認知されなければと思っている。広報誌発行に伴い、町内会で回覧していただこうと考えている。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> <p>作成時に職員参加のもと作っており、中途採用の職員へも入職時のオリエンテーションで周知している。日常のケアは、理念や目標を意識しなくとも各個人の考え方は理念や目標に沿ったものとなっている。</p>	○	<p>理念やケア目標を意識して仕事に取り組む環境にしたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p> <p>入居時に家族などへは説明しているが、地域への発信はしていない。</p>	○	<p>ご家族などへは配布してもいいかも知れないが、高齢の方も多く理解を得るのは難しいかも知れない。地域へは広報誌などを通じて発信したいと考える。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> <p>近隣の住人や隣にある障害者施設の方々とは、気軽に挨拶したり時間がある時は世間話をしたりもする。</p>	○	<p>グループホームの職員は交代勤務であり、毎朝日常的に挨拶するような環境にないが、朝のゴミ捨てなどで外へ出た時に消防署員や近隣の方と挨拶したりしているので、もっと積極的に働きかけたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> <p>地域行事へ外出して参加したり、お祭りの時に来ていただいたりして交流している。自治会などへは参加したいと考えている。</p>	○	<p>自治会会議への参加をしたいと考えている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	特に取り組んではいない。	○	現在の人員配置では、あれもこれも取り組むのは困難であると考える。 外向きの働きかけも重要だが、日常のケアができていないのでは意味がないのではないかと。 内部での話し合いはしたいと思うが。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	費用もかかることですので無駄にはしたくありません。ただ、日常の業務に追われ、結果をうまく活用できていない状況ではあります。	○	職員の入れ替えもあり新しい職員もいることから、職員の意識付けから改めて行う必要がある。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、今年3月に実施した。6月25日にまた開催予定。	○	身寄りの無い方や身元引受人が縁遠い方などが多く、ご家族の出席が一番の懸案事項で、なかなか引き受けていただけない。また、行政関係者は平日の昼間でないと出席していただけないが、地元住民の代表者などは夜間や休日でないといけると言われる。地域包括支援センターからは出席を拒否された。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、相談ごとなどやりとりできる関係にあると思う。	○	用事があればなるべく電話や郵送で済ませずに出向いてお互いの顔が見える関係づくりをしてきたつもりだが、今後も続けていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護事業を利用予定の方がおり、社共担当者から学ぶ機会を得た。 成年後見制度については、法人内研修にて詳しく学ぶ機会があり大変勉強になった。	○	これからも必要とされる方が出てくると思うので、情報収集に努めたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で倫理綱領策定時に職員へ説明したり、日常のケアに関するカンファレンスなどで職員へは伝えている。	○	法律について学ぶ機会を設ける。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	開設以来の経験から、よく聞かれることに関してはこちらから説明するようにしている。 その他疑問や要望に関しても、十分に相談していただいていると思う。	○	複雑な家族環境や生活保護受給者の方などの身元引受人には、入居者をホームに預けっ放しにしたい方も多くなかなか協力を得られないのが難点。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的な触れ合いから人間関係を築き、職員へ気軽に話ができる環境はできていると考える。 面会に来た家族や実習生、ボランティアともよく話しているようす。	○	普段関係の無い人にこそ話せることもあるかも知れないので、ボランティアなどが増えるとよいかも知れない。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	不定期だが、写真と一緒に日常の暮らしぶりなどを手紙にして郵送したりしている。	○	もう少し定期的に行いたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に外部の苦情相談受付窓口の紹介をしている。 その他日常的なことに関しては、日々の連絡のなか行っている。	○	あまり意見をいただけないのが現実。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議などの各種会議や普段の触れ合いの中で意見を聞くように心がけている。	○	会議などで活発な議論ができるようにしたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日中パート職員の勤務時間を、入居者の状況になるべく合わせている。 また、その日の状況に合わせ職員同士で連絡を取り合い調整している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	男性職員がBユニットにかたまってしまったので、Aユニットへ1人異動した。	○	管理側からの一方的な移動命令はなるべく避けたいと考えている。
18-2	○マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	現在、法人内のグループホーム部会でマニュアルの見直しをすすめているが時間がかかっている。	○	法人内マニュアルが出来上がり次第事業所用に見直しをする予定。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修室主導で年間計画を立てて実施されているが、佐渡市という立地条件から、十分に実施できていないといえない。 介護福祉士会佐渡支部などとの連携をはかり、島内で受けられる研修を職員にすすめている。	○	今後、法人として新人ばかりでなく、中堅職員・管理職の研修なども充実させる計画で、一部実施しつつあるので積極的に職員へ参加してもらえよう働きかける予定。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐渡市内に他法人のグループホームが1件しかない。 相手方の管理者とは見学や交換研修などをすすめていきたい旨話しはしている。	○	相手方のグループホームは、島内唯一の競合他社となるが、管理者とはお互い顔を知っているため研修などの実現に向け努力したい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	現場では、職員の顔色や表情に気を配り悩みなどを聞く機会をもつように努力はしているが、なかなか行き届かない。	○	法人内に心理カウンセラーを置く要望も出ているので、実現にむけ努力したい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	法人内では、人事考課、目標管理などのしくみがあり実施しているが、なかなか意欲向上に結びつかない。	○	現場職員のモチベーション維持は、具体的処遇に結びつく、将来にどのように活かせるかビジョンがもてるなど現実的且つ具体的なものが示せないと難しいと考えるので、そのようなしくみをつくっていききたいと考えている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	実際に契約に至る過程で、なるべく自宅を訪ねたり、お茶の時間にグループホームにお連れしたりして入居前にある程度人間関係を築けるよう努力している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	同居している家族などとは入居前の訪問時に話しを充分聞けるよう努力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用目的を見極め、他の事業についても利用のアドバイスをしている。 何度も相談に来てくれる方もいる。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅への訪問時に現場職員を同行させる、事前に見学に引き入れ暫らくの時間経過していただくなどしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に生活し擬似的とはいえ家族のような関係づくりに職員ごと努力している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	複雑な家庭環境の方を積極的に受け入れている事情もあり、身元引受人との関係が疎遠になりがちなものも多い。 現場からの日常の報告や便りを郵送するなどの働きかけをしている。	○	しっかりとした身元引受人との関係はある程度築けていると考えるので、疎遠な方々への無理の無い働きかけを継続していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	身元引受人の負担とならないように配慮しながら支援している。	○	入居前の情報や周囲との関係などある程度理解しているが、不十分に感じる部分もあり、これからも努力する必要がある。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域密着とはいえ佐渡市は広く、自宅周辺との繋がりを保つのは大変困難な事情もある。 地元の方も元々地域から疎まれる存在であったりと課題は多い。	○	在宅で生活していた環境や周囲の方々から情報を集め外出の機会をつくったり、人間関係を少しでも保てるようケアしたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者個々の状態関係性を鑑み、個々の関係性に配慮しつつ家事参加等を通して関わりを持てるようケアしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了しても、様々な相談に応じたり他施設入所の手伝いをさせていただいたり、ご本人以外の方の相談にのったりなどしている。電話や手紙、面会などでの交流もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用して、一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、一人ひとりの生活歴などを把握し、それに近い生活を送れるようカンファレンスのもとケアするよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々変化する入居者の状態に気を配るよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者本人やご家族から要望や意見をいただけることは稀でほとんど職員内でしか検討できない状況なので情報が不十分ではないかと思う。	○	面会に来てくださったご家族の方と、サービス計画書を見ながらいろいろと意見交換したい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者本人やご家族から要望や意見をいただけることは稀でほとんど職員内でしか検討できない状況なので情報が不十分ではないかと思う。	○	状態変化に合わせて随時カンファレンスを行い、サービス計画書を変更する必要があると感じている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の経過記録、サービス計画記録に記録し、情報の共有、実践、介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	生活に困窮している方に生活保護が受けられるまでの間の短期間、食事代のみで対応したり、入院した方の状態や環境に合わせた対応に心がけるなど出来る限りの支援に努めている。	○	今年度は実践リーダー研修の受講をすすめ、短期・通所の受け入れにむけ準備したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察や消防とは必要時に連携を図れるよう関係をつくっている。 近隣の小学校や中学校とは併設のデイサービスと共同で対応している。	○	ボランティアがなかなか来ないので、地域の有力者に協力を依頼したいと考えている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、地域の社会資源は不足傾向にあり、当グループホームに入居している時点で他のサービスが使える状況にな		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	身元引受人の設定や金銭管理などその都度相談しながら対応している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診対応してくれている協力医院の医師との関係は良好でよく対応してくれており、その対応に本人やご家族から満足しているとの声も聞かれる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力医院の医師は在宅医療の対応経験も多く、よく相談にのってくれている。精神科などの他科受診にも紹介状を書く、直接医師同士で連絡してくれるなどよく対応してくれている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	必要時は、併設のデイサービスにいる看護師へ医療面の相談をしている。	○	再度、医療連携契約を結べるよう現在準備中。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	地域の総合病院である両津病院の師長、佐渡病院の医療相談室の相談員との関係は良好で、入居者が入院時にはお互いに連絡をとりながら対応している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現時点では、重度化に伴い医療的加護が必要になった場合など当グループホームで対応ができない状況になったことを想定した将来に向けた話し合いは事あるごとにしている。具体的には、経管栄養やインスリン注射、看取りなどには対応していない。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化には現時点で出来る限り限界まで対応している。主治医とは、その時々どのような容態に注意すべきかなど指示を具体的にいただいたり、急変時の対応などについてその都度相談しながら対応している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他施設への転居時などに主に管理者が相手先の施設との連絡に努め対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	なるべくトイレを使用できるようケアしている。排泄パターン・尿量に合わせて、安易に紙製品を使用しないように配慮している。本人の布パンツ、紙パンツ、尿取りパット、オムツ、Pトイレなど一人ひとりの状態に合わせたケアに努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は14時から17時過ぎ頃の間で、一人ひとりの入りたい時間や状態に合わせている。季節感を感じていただけるよう、ゆず湯やしょうぶ湯を用意している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	早く自室に戻りテレビを見たい方、寝たい方、遅くまで起きていたい方などさまざまだが、照明や室温を調整したり、寝つきの悪い方には添い寝したり個人ごと眠りやすいようケアしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりがそれぞれ役割を持っており、炊事・洗濯・園芸など可能な限り対応している。特に外に出たり、植物に触れたりしている時は皆さん生き生きとしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が難しいので事務所で管理している。買出しの時に支払いをしていただいたりしている。	○	今後は、もっと個人で必要な物。欲しい物がある時には一緒に買い物に行き、本人に支払いをしてもらい、自分で購入するという喜び、楽しみを感じてもらいたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には散歩に出掛けたり、ゴミ捨て、新聞の受け取り、買い物など希望に合わせて外に出ている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者の希望を聞きながら、季節感の感じられるドライブや行事を計画し実施している。	○	今までは、皆で外出する時は外食をしていたが、個別で外出する時はグループホームに戻って食事していた。今後は、個別で外出する際にも本人の馴染みの店などで外食することも考えていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと言われる時には自由にしてもらっている。 お正月には一人ひとりが家族に年賀状を書き新年のあいさつをしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	食堂や居間、居室など様々な場所でお茶を飲んだりしながら過ごされている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設以来、身体拘束は行っていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開設以来鍵はかけていない。 夜間は防犯上の理由から、正面玄関のみ施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在の確認、職員同士が声を掛け合い気配りをしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	異食のある方もいるが、ただ物を無くするのではなく、どうすれば異食しないかなど、状況・状態に合わせて環境に配慮している。	○	個人で裁縫道具など所持している方もいるが、針の始末などが行えなくなりつつあるので、本人に説明し納得の上、職員が預かり必要に応じて出すなどの対応をしていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止や対策は行っている。	○	何度も起こる事故などについては、職員会議で話し合い、事業所全体で事故防止に取り組んでいく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命の研修など行っているが、定期的に行っているとはいえない。	○	定期的に研修を行うようにしたい。 日中・夜間帯とそれぞれの訓練をしていきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	すぐ隣が消防署であることから、災害時、特に職員の手薄になる夜間に対応していただけるように要請している。	○	地域交流を行い、折をみて協力を呼びかけたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居申し込み、契約時より当グループホームの方針を理解していただけるよう説明している。 入居後も都度説明しており一定の理解をいただいている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	状態の変化にも観察を密に行い、変化のある時は職員同士で共有し、管理者や家族、医師などに連絡し指示を仰ぐようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方の説明書を読み、それぞれの薬の効能を理解するよう努めている。	○	処方変更などにはミスも起こりやすいので、情報共有を徹底するよう努めたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分を多く摂る。野菜を多く取り入れた献立づくりにする、なるべく運動するなどしている。 ラジオ体操は毎朝皆で行っている。	○	自立度の高い方の排泄状況を把握するのが難しく苦慮している。職員同士で話し合い、もっと徹底していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後・外出時に歯磨きと緑茶によるうがいを実施している。	○	義歯が歯肉がやせて合わない、噛み合わせが悪い、口腔内に異常がないかなど定期的に確認したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜の多い献立にしたり、量を調節している。	○	個人に合った形態、量の調節を更にすすめたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のマニュアルがあり、ノロウイルス対策として夜間にハイターで手すりやテーブルなどを拭いている。基本的にはスタンダードプリコーションの徹底。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夕食後にまな板などはハイター消毒している。調理したものは4時間後には破棄。生ものは買ったその日に使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関らしい謎えを工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花、イラスト、入居者の作品を飾っている。西日をロールカーテンで調節したりしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や居間、談話室など思い思いの場で過ごしていただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく入居前に実際に使用していた食器類や家具、日用品を持ち込んでいただいている。 大半の方たちは、入居時に購入したものを持参することが多いが、グループホーム側で用意するものも、個人ごとに違うものにするなど工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	寒暖の激しい時もあるので、換気や空調の温度調節などに努めている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バアフリーでありながら、障子風のパーテンションを配置するなど、安全性とプライバシーに配慮した設計となっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の場所を覚えやすいように、入居当初は大きな表札を付けたりしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ユニットの中庭に花や野菜を植え、皆で手入れ・世話をしながら楽しんでいる。 ベランダでは入居者と一緒に洗濯物を干している。		

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように
		②数日に1回程度
		<input type="radio"/> ③たまに
		④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている
		②少しずつ増えている
		<input type="radio"/> ③あまり増えていない
		④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが
		③職員の1/3くらいが
		④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
		③利用者の1/3くらいが
		④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが
		③家族等の1/3くらいが
		④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・入居者一人ひとりの得意な分野で、持てる力を発揮してもらえようケアしている。
- ・行事、買い物、散歩など外の空気に触れる機会をたくさんつくり、季節を感じ楽しんでもらえている。
- ・日々の生活の様子や行事の様子を手紙や写真で家族に知らせ、家族との繋がりを深める努力をしている。